

## CONTENTS

広域医療連携センター  
入退院支援室の取り組み

新任のご挨拶

『赤ちゃんの心臓ホットライン』  
ダイヤル番号変更のお知らせ

(糖尿病代謝・内分泌内科)  
糖尿病性腎症サポート外来のご案内

(麻酔科・ペインクリニック)  
新しい治療法・脊髄刺激療法について

医療連携室からのお知らせ

編集後記

写真：タリア

## 広域医療連携センター入退院支援室の取り組み

広域医療連携センター センター長補佐を務めております、看護部長 西山裕子でございます。

平素は何かと医療連携にご理解ご協力を賜りまして、深く感謝申し上げます。「スムーズに対応し、最大限断らない連携」に向けて体制を強化し努めて参りたいと日々検討しております。

当センター入退院支援室では、患者さまの入院前から退院後までを見据えた一体的な支援をさせていただいております。本年4月からは入退院支援として、PFM(Patient Flow Management)を開始いたしました。予定入院の患者さまへ入院に関する説明を行うと共に、患者さまの状況を入院前から把握し、退院困難な問題が見つければ解決に向けて多職種で情報を共有します。早期に介入することで、入院期間の短縮につながることや、患者さまおよびご家族さまの意思決定を尊重し、患者さまに寄り添った医療の提供ができると考えております。現在、専任の看護師を配置し診療科を限定して開始いたしました。今後は全科にわたり展開し、厚生労働省方針の「ほぼ在宅、時々入院」を推進して参ります。職員一同、特定機能病院として地域の中核病院としての役割を自覚し、活動したいと存じますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



広域医療連携センター  
センター長補佐  
にしやま ゆうこ  
西山 裕子



# 新任のご挨拶

## 放射線診断科

やまもと かすひろ

### 科長 山本 和宏

【平成30年4月1日着任】



当科では中央放射線部オープン検査として①単純CT・造影CT検査（頭頸部、胸部、腹部、骨盤部）②単純MRI・造影MRI検査（頭頸部、胸部、腹部、骨盤部）③核医学検査：SPECT（脳、心臓、全身）を予約検査として対応しています。本院放射線診断科医師が診療情報提供書の記載内容によってご依頼の目的に沿った最適な検査を選択・施行いたします。どうぞお気軽にご紹介ください。

## Profile

- 専門分野  
IVR（画像誘導下治療）、画像診断（腹部・骨盤・骨軟部）
- 資格  
日本医学放射線学会専門医、日本IVR学会専門医、マンモグラフィ読影認定医、  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 略歴  
平成元年 大阪医科大学医学部卒業  
平成8年 大阪医科大学 放射線医学教室 助手  
平成13年 大阪医科大学 放射線医学教室 講師  
平成23年 大阪医科大学 総合医学講座放射線医学 准教授
- 趣味/特技  
ゴルフ

## 循環器内科

ほし が まさ あき

### 科長 星賀 正明

【平成30年8月1日着任】



高齢化により疾病構造が大きく変化し、循環器疾患においてはますます迅速な対応が求められています。当科では、4年前からホットラインを開設し、地域の医療機関からのお電話を24時間365日、担当医が直接お受けしています。激増する大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療も順調に症例を重ねています。よろしくお祈いします。

## Profile

- 専門分野  
循環器一般、心不全、成人先天性心疾患
- 資格  
循環器専門医、総合内科専門医、抗加齢医学会専門医、  
心臓リハビリテーション指導士
- 略歴  
昭和60年 大阪医科大学医学部卒業  
平成6年 米国ワシントン大学（シアトル）留学  
平成10年 大阪医科大学 内科学Ⅰ教室 助手  
平成23年 大阪医科大学 内科学Ⅰ教室 講師  
平成24年 大阪医科大学 内科学Ⅲ教室 准教授  
平成25年 大阪医科大学附属病院  
医療プロフェッショナル支援室長（兼任）  
平成26年 大阪医科大学 内科学Ⅲ教室 専門教授
- 趣味/特技  
ピアノ演奏

## 『赤ちゃんの心臓ホットライン』ダイヤル番号変更のお知らせ

このたび24時間365日随時対応しております『赤ちゃんの心臓ホットライン』のダイヤル番号を変更いたしました。

胎児心エコーや心雑音、不整脈、先天性心疾患でお困りの際には、是非ご利用ください。また、診断、検査、治療方針などのご相談にも対応いたします。

地域を問わず病院・診療所の先生方からいただいたコールに、担当の小児科医が対応し、緊急入院の手配や通常の外来診療をご案内いたします。よろしくお願い申し上げます。

※ホットラインカード送付のご依頼は、医療連携室までご連絡ください。



## 糖尿病代謝・内分泌内科

## 糖尿病性腎症サポート外来のご案内

いん べ ひさし  
忌部 尚

当科では、糖尿病、高脂血症、肥満症、痛風などの代謝疾患や内分泌疾患を診療しています。糖尿病に関しましては、初期の糖尿病教育入院以外に、合併症の治療や再教育、またインスリン、GLP-1受容体作動薬だけでなく、SGLT2阻害薬をはじめとする新規経口血糖降下薬の導入を含め、患者さまの病態や状態に合わせた治療を行っています。

治療方針についてお困りの症例などがありましたら、遠慮なくご相談ください。

## 糖尿病性腎症サポート外来のご紹介

当科での特色のある外来として「糖尿病性腎症サポート外来」があります。これは、医師・看護師・管理栄養士がそれぞれの専門的な立場から糖尿病性腎症を中心に日々の生活で注意すべき点や、取り組むべき点について指導・助言

を行う外来です。尿アルブミンが軽度陽性になる初期から、持続的に尿蛋白が出現してきた患者さま、クレアチニンが上昇し始めた患者さままで、すべての腎症の病期の方が対象です（但し既に透析をされている方は対象外です）。ご紹介いただいた患者さまは指導を行った後、先生方のもとに戻っていただきます。

当科では糖尿病協同診療システムによるフォローアップを実施し、今後も地域の先生方と共に患者さまを診療していく方針です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 麻酔科・ペインクリニック

## 新しい治療法・脊髄刺激療法について

(Spinal Cord Stimulation : SCS)

みなみ とし あき  
科長 南 敏明  
き ど はる き  
城戸 晴規

## 患者さまの生活の質の向上を目指して

治療しても痛みが軽くならない、原因不明の痛みがずっと続くなど慢性の痛みを抱えている患者さまは少なくありません。長く持続する痛みにより生活の質が低下すると、さらに心理的社会的な要因も加わり、病態を複雑にしまいます。そのような状態にならないために、我々は神経ブロックや薬物治療を駆使し、患者さまの痛みの軽減に努めています。また、近年注目されている慢性痛に対する治療法の一つである、「脊髄刺激療法」にも積極的に取り組んでいます。痛みでお困りの患者さまがいらっしゃいましたらご紹介ください。

## ■ 脊髄刺激療法とは

硬膜外腔に刺激電極を挿入し、脊髄後索に弱い電流を流すことにより痛みが軽減します。専用の端末を用いて、患者さまが刺激の調整を行うことが可能です(図)。世界で25万人以上

の患者さまが治療を受けています（健康保険適応）。

## ● 治療の特徴

まず電極だけを挿入し、試験的に刺激を与えます。1～2週間、試験的な刺激を試していただき、患者さまの生活の質が向上すれば、刺激装置を植え込みます。ペースメーカーのようなものです。電極の挿入は局所麻酔下で行います。

## ● 対象疾患

複合性局所疼痛症候群、脊椎手術後症候群、末梢血管障害による痛み（閉塞性動脈硬化症、パージャージャー病）、帯状疱疹関連痛 など



(図：脊髄刺激療法)



## 医療連携室からのお知らせ

### 名称変更のお知らせ

平成30年9月1日から、一部の診療科・部門の名称を変更いたしました。

(旧)		(新)
神経内科	⇒	<b>脳神経内科</b>
がんセンター	⇒	<b>がん医療総合センター</b>

診療科のカバーする分野・疾患領域を、より分かりやすく表現するため、診療科および部門名称を変更いたしました。今後とも変わらぬご支援ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 「第6回紹介医療機関と大阪医科大学病院との連携強化のつどい」を開催しました

日頃、本院と連携いただいている地域の病院・クリニックさまを対象に、9月15日(土)大阪新阪急ホテルにて開催しました。

今年度は、「学校法人大阪医科薬科大学の成長～大学病院を中心に～」のあと、「ロボット手術の可能性」をテーマに中央手術部からの報告や腎泌尿器外科、一般・消化器・小児外科、婦人科・

腫瘍科、呼吸器外科からプレゼンテーションを行いました。

懇親会では、日頃からお世話になっている多職種の方と和やかに懇談の場をもつことができました。

お忙しい中ご出席いただきました皆様には心から御礼申し上げます。



### 編集 後記

異動により5年半ぶりに大学から病院に戻ってきました。大きく変わったところもありますが、さほど変わっていないところもあり、少し安心しました。久しぶりにもかかわらず、多くの方から励ましの言葉をいただき、大変感謝しています。しかしながら、異動後すぐに地震や猛暑、台風と今まで経験したことのないような天災により日本全体が甚大な被害に遭い、何か自分の異動と因果関係があるのかと疑ってしまつたくらいです。被害に遭われた皆様の一刻も早い復興を祈念いたします。

話は変わりますが、先日のテニス4大会での日本人初優勝では、優勝した選手のスピーチに心打たれました。毎試合後、敗者にも必ずお辞儀をし、決勝戦でも対戦相手が審判に猛抗議をし、会場が異様な雰囲気になった中でも、極めて冷静に振る舞い、勝利を手に入れました。試合後の勝利者スピーチでは、涙ながらに自分が勝者となつてしまったことを観客に謝罪し、試合を観てくれたことにお礼を伝えました。このスピーチで観客からのブライイングは自然に止み、一気に観客の心を掴んで、盛大な拍手が巻き起こりました。日本人の礼儀正しさや相手を敬う心に、久しぶりに日本人として誇らしい思いがしました。このような気持ちをお忘れずに自分も業務に取り組みたいと思われました。今後ともよろしくお願いたします。(H.N)

## 医療連携室ご利用のご案内

### 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日／8:30～20:00 土曜日／8:30～12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科大学附属病院広域医療連携センター医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

● TEL.072-683-1221 (大代表) 内線2308

● TEL.072-684-6338 (医療連携室直通)



送信先 FAX 072-684-6339

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください